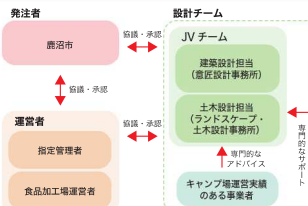


記載すべき事項	・業務への取組体制（各業務の担当者を示すこと）	・設計チームの特徴（どのような効果が期待できるか示すこと）	・業務スケジュール（着手から完了までの工程案を示すこと）
	・特に重視する設計上の配慮事項（様式第7号の内容を除く）	・その他の業務実施上の配慮事項等を簡潔に記述すること。	

■業務への取組体制

多角的な視点から考えるチーム体制
本建築を得意とする建築設計事務所と、国内内外の豊富な経験のあるランドスケープ・土木設計事務所の2社による設計 JV チームで業務を遂行します。協働した情報共有を行い、多様な意見を統合・反映できる体制を構築し、高い品質を確保することを目指します。発注者・運営者とのコミュニケーションツールとしては、模型やイメージ図を用いて分かりやすいプレゼンテーションを行い、課題を共有して進めます。



■設計チームの特徴

高い技術力と豊富な実績を持つ専門家が協同して提案

本設計チームはこれまでにも協同して業務を行った実績があり、スムーズに業務を遂行することが可能です。

意匠設計事務所

新たな交差点に開いた経験があり、大規模な開発を伴う土木工事と共に行う設計・監理に関わった実績もある。特に本建築の設計を数多く手がけ、木の持つ特性を生かし、風景と馴染む建築を得意とします。

構造設計事務所

全国的に大規模木造に関する設計実績が多数あり、構造に関する受発歴など、豊富な経験があります。

ランドスケープ・土木設計事務所

国内外の公園や庭園、商業施設の外部空間、自然環境有形成計画で総合的に豊かな自然に関わるコンサルティングと設計を行います。公園の設計では、計画設計プロセスを重視し、広く多様な参加型プログラムを取り入れ、施設運用の持続性を高める工夫をしています。

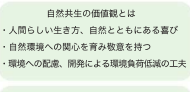
設備設計事務所

施設設計など数多く施設を手がけてきた老練の設備設計事務所で、公共建築を得意とし、数多くの物件を手がけています。

■特に重視する設計上の配慮事項

人と自然、人と人をつなぐ

水原地域振興拠点施設は、水原地区である上南地区の自然資源の豊かさ・魅力を多くの人と共有することと考えています。この場を誇らしむとともに自然とともに生きる力を学び、地域の産業文化に触れ、多様な人の交流がでる場所をつくりたい。この施設を起点として近隣の森や農地とも融れることができます。地域の人と地域外からの来訪者の交流を促し、「人と自然との価値観」を育ける地域密着型の交流フィールドを創り出すための提案を行います。



地域密着型の交流フィールドとは
・コア施設とキャンプ場一体感を大切にする
・地域魅力の魅力的な活用
・地域の自然や産業文化に関する学びの場となる

長く愛され、使い続けられる施設設計

「案内」・「移動」・「利用」等のユニバーサルデザインを徹底し、できるだけ多くの人々が利用可能なデザインを設計に取り入れます。加えて近年注目されるインクルーシブデザイン（デザインの段階に一般的には排除されがちな少数ユーザーを認識し、取り入れる）もユーザーの声を十分に設計に反映する意思を持っていきます。アウトドアシーズはこれらが高まり、ユーザーの多様性は一層拡大が考えられます。これからのユーザー像を発注者・運営者とともに深く掘り下げ、設計への反映について整理提案します。



「ニューノーマルへの対応」

これからの社会に建築・環境デザインが果たすべき役割は大きいと考えます。密を回避し、非接触や換気対策について十分に検討を行うことは勿論、施設が元来持つ、自然に接し求める傾向も強くなっており、開放性を重視し外部空間づくりを行い、この施設が自然と意識が外部のアウトドアへ向かっているよう計画します。
「施設の長寿命性に配慮した設計」
耐久性、メンテナンス性、経済性等の観点から比較検討を行い、最適な材料や工法の決定をします。特にランニングコストに影響の大きいものは、導入の場面のランニングとメンテナンスの比較検討を行いしつかり検証した上で設計に反映します。



■その他業務実施上の配慮事項

キャンプ場ニーズを反映した設計

宿泊施設が令和元年度に実施したの市政に関するアンケートを参照すると、様々なキャンプ場に対する社会ニーズが読み取れますが、このニーズをしっかりと反映する魅力あるキャンプ場を実現するために、キャンプ場運営に精通している事業者のサポート体制を整え、的確に実施設計へ反映できる体制を整えます。

多様化するアウトドアシーンへの対応

キャンプ場はこれら、より幅広い利用を想定した空間づくりが重要になると考えられます。キャンプを目的とした建設と捉えられがちですが、様々な取り組みが始まっており、発注者、指定管理者、地元の人達が繋がる場所として「施設の役割」を明確に意識した検討を行います。日常的な運営やイベントの他、多様なニーズ運営に精通している事業者のサポート体制に必要な詳細設計を提案し、発注者・運営者とともに必要に応じて実施設計へ反映できる体制を整えます。

包括的なプロジェクトコントロール

「地元企業との協働による工程コントロール」
地元企業や地域の事情に精通している専門家と協働することで、地域に根ざした施設の提案と迅速で着実な対応を約束します。感染症対策による移動の制限が起きた場合でも着実に業務を遂行する体制を整えます。

幅広い視点からのコストコントロール

実施設計者手続に連動やかに運営予定事業者及び発注者と施設規模の調整を行い、基本設計のコンセプトや広さを粗くならなく、体面感を圧縮して工費負担を回ります。体面集約化、展示兼用の収容機・小上がりをスペースの柔軟な取捨選択による自前面積の削減など、使いやすさを重視しつつ、適切な計画とします。

又、開発申請に伴い第37条1号の建築制限等解除申請を行い、建築工事と土木工事の同時施工の協議を進めます。造成と並行して建築工事を進めることで、設備配管工事の効率をあげ、建設コストの削減につなげます。

「工事監理まで発注した品質コントロール」

本事業は自然素材や自然物を用いたデザインが特徴となります。実施設計では指示が難しいデザインも工事監理により高い品質の空間を実現することが可能です。例えば外構では現場での樹木材料検査、現地の樹木や石の届けなど自然物の個性を読み取り設計意図を反映して、仕上がり質までコントロールする意欲で取り組みます。

■業務スケジュール

チェックポイントの設定により事業全体をコントロール

業務開始にあたり、重要課題を整理して、関係各位とスケジュールを共有し、業務の進捗を管理することで業務の円滑化・迅速化を圖ります。実施設計を2つのステージに分割して業務を遂行し、ステージごとにチェックポイントを設定し、行政及び指定管理者と協働を行い、明確な目標設定とその共有により業務円滑や手戻りを回避し、確実に手戻りなく進めます。

全体	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
発注者・運営者とのやりとり (チェックポイント)			● 指定管理者決定								
建築設計	基本方針の確定 構法・設備の確定	実施設計開始						積算業務	確認申請	発注準備	予備期間
ランドスケープ (土木設計)	基本方針の確定	実施設計開始						積算業務	確認申請	発注準備	予備期間

*用紙はA3判とし、横使いで記載すること

*提出者（協力事務所等を含む）を特定することができない（具体的な社名等）を記載しないこと。社名等が特定できないものであれば、写真等の掲載も可とする。



例：ビジネスキャンプ
法人を対象にしたアウトドア会議・研修
平日のキャンプ場利用に期待が高い